

ROTARY CLUB OF

# KANAZAWA-NORTH WEEKLY



## 金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 63-1151

会長：越野 民男 幹事：浅田 豊久

情報委員長：清水 忠

1975・10月2日

第50号

## 名 月 俳 談

俳 人 山 本 清 嗣 氏



九月廿日（旧暦八月十五日）は仲秋の名月である。

俳諧の世界では、一日の月を初月、二日を二日月、三日を三日月、十四日を宵待又は小望月、そして十五日は月今宵、今日の月、名月望月といふ、曇ならば無月、雨ならば雨月といふ、分けている。

更に十六日以後は、十六夜、立待、居待、寝待、更待、宵闇月というように、一日といえども呼名のない月はない。

英語では唯“The Moon”としか表現し得ないであろう月の日々の変化を、このように微妙に表現し分けられることは、月と人が完全に一体となり、月の変化を自分のことのように思う日本人の心情のあらわれである。

古来、自然を愛する点において、日本人の右に出る民族はないであろう。その自然を愛する美風は、月が人間に征服されたにしても何時までも持ち続けていきたいと今宵の月をめめながらしみじみ思う。

—金沢北 RC 例会卓話より— (文責 清水 忠)



## 卯辰山碑林散歩 (22)

—芭蕉翁巡錫地の碑—

“あかあかと日はつれなくも秋の風、  
夏の終わりになると、この句を思い起す。元禄2年夏、奥の細道行脚の途次金沢を訪れた俳聖芭蕉の秀吟である。

北枝など門人の案内で小坂神社に参拝し、句会を開き、舟遊びをたのしんだ翁を記念した碑が、境内の奥まった所にひっそりと建っている。あたりには夏草が茫々としている。

## 私の見たベルギー

越野 慶隆君

姫路・金沢両市のロータリークラブの行なったベルギー生活体験団の一員として去る7月25日日本を出発し、約一ヶ月の海外旅行をして来ました。主なコースは、初めと終りに家庭滞在をし、その間に10日程のヨーロッパバス旅行をして来ました。

その第1・第2家庭滞在の間に見たベルギー人やその家庭の印象は貴重なものでした。もっともヨーロッパ人の見習うべき点は、その真の合理主義でありました。すなわち16～17世紀の家や家具が実際に普通に使用されています。また高い生活水準にかかわらず、物の使い捨てはほとんどしませんし、食事は残さず、又残してもあまり捨てません。さらに何んでもホームメイドです。つまり野菜やくだものはもちろん、家具や家にいたるまで自分で作るのです。



ベルギーの女性の地位の高さはもちろんです。第2家庭滞在のホストはまだ結婚2年目の若い方だったのでヨーロッパと日本の結婚様式や、女性の地位について語り合いました。女性の地位は高いというよりは、男性や社会が弱い女性を守ってやっているという感じがします。また結婚は男性が女性をもらいに行くという感じが強く、お嫁に行くという日本的な結婚は、ベルギー人には大きな関心事だったようです。日本の女性は、かわいいと評判は良いようです。

ベルギー人の日本人観を尋ねた所、日本人はハードワーカーであると聞いているという答でした。実際、ベルギーは完全な週休2日制ですし、長期の夏休みもあります。しかし、彼らは非常に勤勉であるようでした。ただ、ヨーロッパ諸国について言えることですが、行動はおそく、ゆっくりペースです。また、休日の使い方は上手に思えました。無理なことをするわけではなく、畑を作ったり、スポーツを楽しんだりするのです。

ロータリーの例会には、あちらの御好意により出席させていただきました。アントワープの7クラブが1ヶ所に集まった時でしたので、かなり広い会場でした。ミーティングの様式はほとんど変わりありませんが、ホリディーというシステムがあって、その期間は欠席が可能なわけです。

最後に、この様なすばらしい体験を積ませていただき大へん感謝しています。特に家庭滞在は将来なかなかできるものではないと思います。ベルギーの方は大へん親切にしてくれ、また喜ばれて来年は120人の団体に日本に来られるということです。今後、このようなすばらしい企画がどんどん発展することを望みます。

### 静岡県藤枝RC会報から

……それにしても、ロータリーの友8月号の20～21ページ著書紹介に、創立1年半足らずの金沢北ロータリークラブが、B5版84頁の「おおロータリアン—職業奉仕とは」の小冊子を出したことに驚きました。クラブでもこの小冊子を購入し、職業奉仕にとり組みたいと思います。

(同RC小林次助会長のあいさつから)

私のロータリー手帖から（3）  
**機械文明の重圧から人間を**  
 —東昇博士のこと—

柴田 三郎

“お、ロータリアン”の塚本義隆先生のご講演中49～50ページに次の一節がある。……1年前に私は、京都で開かれた第365地区大会の特別講演を聞きました。講師は、京都大学教授の東昇という京都東クラブの会員の方であります。東さんは生物学専門の博士であります。私はこの博士の講演をきいて非常な感銘を受けました。

「今日人間は、巨大な機械力の下僕となりさがり、主体性を失い、自ら造り出した科学文明の奴隷となって、その重圧のもとで喘いでいる。科学技術の進歩は、もはやこの儘では人間の幸福に結び付かぬばかりでなく、益々混迷を惹き起すであろう。私共はこの激しい渦の中から脱出できるであろうか。科学万能の盲信からは、唯、冷たい非情な知識だけしか得られません。大切なものが何か欠けている。私達は、知識だけと結びついた人間のエゴ私欲を破り、人間と自然の連帯感、一体感を深めて行かねばならぬ。この考え方を根底に持った知性こそが、現代の混迷から脱出する唯一の鍵でありましょう。人間の智慧は、コンピューターの集積よりも遙かに大きいものです。何となれば、コンピューターの歴史は僅かに30年、之に比べて人間の頭脳は、35億年の日時をかけて出来たものである」私は東教授のお話非常に感銘しました。……

塚本先生のご講演に登場のこの東昇博士ご自身から過日ご書面が私に届いた「……“お、ロータリアン”に私の講演の一部が載っていると聞いたが、一冊頂戴できぬだろうか……」とある。私は恐縮、早速「……気の利かぬことで申し訳ありません……」と、お詫びに添えて“お、ロータリアン”をお送りした。

しかるところ、折返し東昇博士からお礼のお言葉に併せて以下のご芳書を頂戴した。

「……大連ロータリークラブのロータリー宣言(“お、ロータリアン”72～73ページ所載)は実に良いですね。なかでも第一、第三は私の最も感動するところ、まさに柴田様ご指摘のように不滅の名言です。第三に関連して新島襄の次の詩を思い出します。

右から

英	廟	忼	徒
雄	議	慨	假
不	未	誰	公
起	定	先	事
奈	國	天	逞
神	步	下	私
州	退	憂	欲

慷慨

徒らに公事を仮かって私欲を逞たくましくす。

慷慨誰たれか天下てんかに先立さきって憂うれえん。

廟議未だ定まらず国歩退く。

英雄起おこらずんば神州しんしゅうを奈なにせん。

御指摘のように、ロータリーは英気を必要とします。

来月25日、岡山市で開催の第369地区大会の記念講演“人間の尊厳”をおほせつかっています……。」

私は改めて、東昇博士の所論をかみしめつつ感慨を深くし、且つご紹介くださった塚本先生と併せてそのご見識に敬意を表して止まない。尚、ご教示くださった聖人新島襄の漢詩は共感に堪えずそのご好意に厚く感謝申し上げます。

